

何でも読もう会

書物名	『灰色の月』 志賀直哉	開催 日時	2022.6.1	推薦	首藤
巻・章	全編		青少年セ	出席者	5名
<p>先月に引き続き、志賀直哉の短編を読んだ。わずか数ページの小品。</p> <p>終戦後2ヶ月。焼け跡の東京の山手線内の1コマを切り取った。</p> <p>東京駅から渋谷まで帰る作者が車内で遭遇した出来事。見過ごせばそれきりという場面を小品ながら高いレベルに引き上げた。</p> <p>焼けただれた東京の町並みの描写は「灰色の月が・・・ぼんやり照らしていた」で済まし、車内の人物は実に丁寧に、分かり易く説明している。</p> <p>一人の哀れな少年工をめぐるやりとりと少年工の発する一言、それを受けとめる作者の胸の内が「サビ」の部分。非常に短いので、一度お読みになってください。</p>					